

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600369
法人名	株式会社 むらかみ
事業所名	グループホーム やまと
所在地	愛媛県大洲市長浜町下須戒13番地8
自己評価作成日	平成26年8月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

できるだけ家庭での生活に近づけ、理念である「明るく、楽しく穏やかに、を日々展開できるように取り組んでいます。職員は認知症ケアの向上に研修や資格取得に前向きに取り組み、利用者の方が「グループホームやまとで暮らせてよかった。この人（職員）たちに出会えてよかった」と思っただけのように一緒に生活しています。また、いざという時の協力や、季節の行事に地域の方の強力な支援もあり地域住民としても安心して生活ができるホームになりつつあります。又、昨年2ユニットに増設となり、新規利用者の方や新職員が増え、新たな体制のもと、チーム一丸となってケアにあたるよう、努力しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は昨年、1ユニットから2ユニットに増設されたことにより、利用者や職員が増えており、管理者は、職員ミーティングの機会等に、理念の意義や「実践に活かすためには情報共有が大切である」ことを説明されている。又、外・内部の研修の受講や日々の中で学べるよう取り組んでいるところである。若い頃からおしゃれに気を使っていた方には、化粧品や服装等、こだわりを大切にされた支援に努めておられる。朝の更衣時には、気温に合わせて選べるよう、職員は助言等しながら支援されている。誕生日には、利用者個々の行きたい場所や行いたいことをできるように支援しており、又、ご家族の了解や協力を得ながら帰宅やお墓参り、買い物等、支援されている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム やまと

(ユニット名) ぽかぽか広場

記入者(管理者)

氏名 祖母谷 啓子

評価完了日 26 年 8 月 25 日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「明るく、楽しく、穏やかに」の理念を玄関やリビングに掲示して理念共有を図っている。	
			(外部評価) 開設時つくった理念「明るく、楽しく、穏やかに」を玄関や各ユニットに掲示されている。事業所は昨年、1ユニットから2ユニットに増設されたことにより、利用者や職員が増えており、管理者は、職員ミーティングの機会等に、理念の意義や「実践に活かすためには情報共有が大切である」ことを説明されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地区の避難訓練やその他の行事、ご近所の理髪店を利用している。ホームでの行事(歌声喫茶)にも毎回参加して頂いている。	
			(外部評価) 近くの保育園で発表会等が催される時には、その後、事業所に来て踊りを披露してくれており、利用者の楽しみとなっている。2ヶ月に1回、ユニット交代で歌声喫茶を開いており、お茶を飲みながらみなで懐かしい歌を歌い、利用者も地域の方も心待ちにされている。地域の文化祭に出かけたり、小学校の運動会の応援にも出かけられるよう支援されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 普段から地域の方と交流を図る事により、会話などで支援方法や認知症に対する理解を得られるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年間行事計画に基づき、2カ月に1回開催している。取り組み状況については資料を元に十分な報告ができる。地域行事に参加した際には、公民館長さんより「こうしたほうが良かった」等アドバイスを頂き、次回参加する時に活かせるよう担当者と話し合いにて改善に努めている。	
			(外部評価) 会議時、公民館長から地域行事を教えてもらって参加しており、席の確保等、配慮していただいている。「地域に郷土芸能グループがある」という情報を得て、敬老会時には、子ども伊予万歳のグループに来てもらって、利用者はたいそう喜ばれたようだ。他グループホーム職員の参加もあり、2ユニットならではの課題等も聴くことができたようだ。ご家族から、「自宅に連れて帰ることが不安」との声があった際には、管理者が「利用者のご家族と過ごすことの大切さ」等話をされた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いているので、定期的な話や相談する事ができる。又、市内GH連絡協議会に参加し、市の高齢福祉課の方が事務局になって協力して頂いている。	
			(外部評価) 3ヶ月に1回の「グループホーム連絡協議会」時には、大洲市の福祉課担当者も一緒にテーマを決めたり資料を用意して下さっており、同業者が集い、ケアや取り組みについて意見交換する機会になっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関や居室の鍵は拘束に当たる事を説明した上で解放している。初任者研修へ参加する事で理解できている職員もいるが、新人職員が多い為今後の課題であると考えている。	
			(外部評価) 身体拘束しないケアについて、新人職員にも説明している。慌ただしい状況等があると、職員は利用者の行動等を制止するような言葉が出ることもあり、管理者は「落ち着いて」と職員に声をかけて、アドバイスをされている。転倒が心配される利用者の立ち上がり時は、特に気を付けて見守り、事前サインを察知し即座に付き添い支援できるよう取り組まれている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  カンファレンス等で最低限の知識は得られるよう話し合っている。小さな傷など見過ごす事がないよう、日々の身体状況の観察に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  新人職員が半数以上という事もあり、まだ学ぶ機械は設けられていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約前に、施設見学をして頂いたり、施設の活動などを説明を行い、その上で入居の意向を固めて頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  意見等が出た場合は、カンファレンスや運営推進会議にて表し反映できるよう努めている。  (外部評価)  ご家族が事業所に足を運ぶ回数を増やしていただきたいという思いを込めて、毎月の利用料は持参していただく仕組みになっている。今年の敬老会は、ご家族の参加が多かったようで、ご家族からは、「こんなに下さり、私ども協力せないかん」というような声もあったようだ。ご家族から「できるだけ歩かせてほしい」という希望があり、ご本人の状態等も踏まえて主治医と相談して、直線の短い距離を歩くことを支援している事例がある。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度会議を行い、業務、運営、職場環境について提案できる機会を設けている。又会議以外でも必要であれば、意見交換を行い出来るだけ早期の実現に取り組んでいる。	今後さらに職員の意見を運営に反映して、利用者を支えていくチームとしてのレベルアップを目指して、取り組みをすすめていかれてほしい。
			(外部評価) ユニットの増設により、新人職員が多く、現在、外・内部の研修受講や日々の中で学べるよう取り組んでいるところである。今回の自己評価は職員全員で取り組み、「職員によって見方が違う」ことや、「分かっていると思っていたことがそうではなかった」こと等の気づきがあったようだ。さらなるチームケアに向け、月1回の業務カンファレンスと、別の日に全員参加のケアカンファレンスを実施しており、利用者の目線で意見を出し合っておられる。職員は、疑問点は質問し、気付いたことは申し送り簿に記載するようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が働きやすいようにと考えながら、加算等を活用しながら、環境改善整備に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 一人一人の希望や職員の状況を見て外部研修に参加できるよう支援している。又、研修内容を皆に伝達し、学習の機会を設けるよう努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 市内のGH連絡会に参加し、情報交換し、活動の参考にしている。又職員施設見学や相互研修に参加してもらい、意識の向上につながるよう取り組んでいる。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前のアセスメントを元に、要望などを把握し入居後は担当職員を中心に関係づくりに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			ホームでの暮らしについて十分に説明を行い、家族、利用者の方の不安要望等、話をしっかりと聴き、担当職員を中心とし仲介しながら、家族との関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			入居前のアセスメント、在宅時のケアマネージャーの方の情報提供にて柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			生活歴や価値観を理解し、共に支え合える関係が築けるよう心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			外出や面会を通じて共に支え合う関係を築けるようにしている。事情により面会に来られない家族に対しては、手紙や電話にて近況報告を行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			会話にて地元の話しをしたり、誕生日には希望に沿った支援をしている(お墓参りや、自宅の送迎等)。	
			(外部評価)	
			入居時には、ご家族から生活歴等を聞き取り、入居後は、利用者やゆっくりお話したり、知人に出会った時の会話等から情報を得るよう取り組まれている。お話する中から、お若い頃の勤め先を知ることにつながったようなこともある。その頃の話題になると、利用者は何とも言えないような表情をされるようだ。誕生日には、利用者個々の行きたい場所や行いたいことができるよう支援しており、又、ご家族の了解や協力を得ながら帰宅やお墓参り、買い物等、支援されている。個々のかかりつけ医での受診時には知り合いに会うようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の関係性を把握し、席などの配置に気を配ったり、必要に応じて会話の仲介をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 定期的に電話などで連絡を取り、関係が途切れないようにしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話の中で聞把握できる時もあるが、できない時は家族から聞き取りを行ったり、他職員に聞いたりしている。又、困難な方は行動などを観察し職員間で話し合っている。 (外部評価) アセスメント様式は、センター方式を一部用いて、オリジナルで作っておられ、入居前の聴き取りと、入居後の会話や観察から集めた情報を、色分けして追記しながら蓄積されている。「歌が好きな方」「歌がうるさいと言う方」「鏡に映った自分の姿で不穏になる方」「ここへ仕事に来ていると思っている方」等、それぞれの思いを把握できるよう努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族からの聞き取りにて把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 活動表、介護記録、アセスメントやモニタリングを元にカンファレンスで情報交換を行い、状況把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>アセスメント、本人、家族の要望を聞き取り、医師の助言を取り入れ、それを元にケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>半年ごとの介護計画の見直しの時期には、ご家族に来院していただき、意見や要望を直接聞き取り、計画作成できるよう取り組まれている。ご家族の意見と利用者の思いが一致しないこともあるが、医師の意見等も伝えながら利用者の状態を踏まえて話し合い、計画を作成されている。計画表の項目別にモニタリングを行い、6ヶ月毎の計画見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別記録に記入したり、職員間の会話などで情報共有している。担当職員が3カ月ごとにモニタリングを行い、気づきやケアの評価をカンファレンスで全職員に発表し見直し等をしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護相談、通院介助等行ったり、家族本人と話し合い、必要であれば他種サービスの利用等の調整をしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>理髪店は利用しているが、その他のお店は歩いて行ける所がない為、買い物の際は車が必要となっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時に主治医について話しをし、家族、本人に決定して頂いている。家族支援の場合には身体の情報提供を手紙や口頭で家族に伝え、適切な医療が受けられるよう医師に伝達してもらっている。	
			(外部評価) ご家族が通院介助する場合は、受診に必要な情報を伝え、受診後に結果を聞くようにされている。ご家族からの希望で、職員が通院介助するケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の生活の状況や前回の受診からの変化など、医師・看護師に伝えており、適切な受診が受けられるよう支援している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には入院の準備、家族への説明などを行い出来るだけ、本人が安心して治療できるよう支援している。入院中も病院に出向き状況を把握に努め、家族の理解を得て病状を聞かせて頂き、早期退院が望めるか確認している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に大まかな希望は聞き取り、本人の状況変化に伴いその都度家族の意向を確認し、話し合いながら進めている。	
			(外部評価) 開設からこれまでに2名の利用者の看取りを支援した経験がある。ご家族には、最期が近づくにつれ「ご家族の協力が必要」ということを伝え、通院が難しくなれば往診可能な協力医に変更できるよう話し合われている。市主催のグループホーム連絡協議会時には、看取り支援について各事業所の現状や悩み等が話し合われている。 事業所では、看取りの指針を示して、ご家族の同意を得る方法を検討されている。最期まで利用者主体の支援を実践できるよう、利用者の思いを大切に、ご家族等と協力できるような取り組みをすすめていかれてほしい。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 避難訓練を年に2回以上実施しており、消防署立ち合いの際は応急手当や初期対応の訓練を指導して頂いている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 自治防災の呼びかけから地域全体の避難訓練にも参加し、意識を高めている。災害時には地域の支援・協力が得られるよう配慮して頂いている。	
			(外部評価) 事業所が所在する地域一体は水没危険地区であったが、かさ上げ工事と、近くの橋の掛け替え工事がなされた。施設長は、防災士の資格を有しており、地区の防災訓練等にも参加されている。事業所で津波想定訓練を行った際には、利用者をリヤカーに乗せて高台まで運ぶ避難を実際に行い、「3人乗ると上り坂が大変」ということが分かったようだ。1階ユニットは各居室から外に出ることができ、2階からは滑り台で駐車場に降りることができるようになっている。いざという時には、事業所担当の地域の協力員や隣人の協力が得られるようになっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個別の話しは居室であったり、落ち着ける場所を選んだりしている。又、その人の人格が尊重されるよう介助の仕方などについてはカンファレンス等で全職員が話し合いを行っている。	
			(外部評価) 通院や行事時には、知人に会い近況を訊かれる事があるが、本人が答えられない場合は、ご家族から伝えていただくようにしている。若い頃からおしゃれに気を使っていた方には、化粧品や服装等、こだわりを大切にされた支援に努めておられる。朝の更衣時には、気温に合わせて選べるよう、職員は助言等しながら支援されている。利用者の状態に応じて、声かけのタイミングや大きさにも気を付けるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望や思いが言いやすい環境になるよう、言葉掛けなど接し方に配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
			出来る限り希望に沿って過ごせるよう支援している。急な外出を希望された場合、リスクを伴いそうな時は日を改めて頂いたり、ホーム周辺を散歩している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	
			本人の思うおしゃれが継続できるよう見守りにて対応している。必要に応じ介助する事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
			決まった献立ではあるが、その日の気分で食べたいものに変更している。準備や片付けは、ほぼ毎日一緒に行っており、食べる事への楽しみに繋げている。	
			(外部評価)	
			普段は業者から献立に添った食材が届き、調理するようになっているが、行事食や2、3日に1回は、利用者に食べたい物を聞いて買い物に行き、一緒に作るようにされている。「ここに仕事に来ている」と思っている方には、台所で職員と一緒に洗い物等をできるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	
			ADLの状態や、その日の体調に合わせ、刻み食やおかゆなどで食べやすい物にしている。水分確保に関しては、疾患等を把握した上でジュースや珈琲など、本人の好きな物を提供し十分な水分確保ができるよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	
			声かけ・見守り・介助にて朝晩2回の口腔ケアをしている。歯ブラシも柔らかい物やスポンジなど、状態に応じ使い分けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  活動表を元に個々の排泄パターンの把握に努め、失敗が減るようトイレでの排泄を促している。	
			(外部評価)  利用者毎に排泄の間隔に違いがあり、職員は観察しながら声をかけるようにされている。昼間は全員トイレで排泄し、夜間はトイレ、ポータブルトイレ、パッド交換等、利用者の状態によって対応されている。ポータブルトイレは昼間は居室に置かず、別の場所に片付けてあった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  腹部マッサージや水分摂取、身体を動かせる方は体操などを促し、予防に努めている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  曜日指定はしていないが、安全確保の為、入浴時間は3人体制である午後に指定している。湯の温度はそれぞれの好みの温度に合わせ、無理のない程度で希望を尊重している。	
			(外部評価)  「感染を回避する」観点から、利用者一人ずつお湯を入れ替え、好みの湯温で入浴できるよう支援されている。異性の介助に抵抗のある方には、同性に変更し、「入らない」と言われる方には無理強いせず、日を替える等して支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  生活習慣やその時々状況に応じ、音や空調に配慮している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋はいつでも見れるよう、ファイルを作っており、必要時には各自職員が確認している。症状の変化があった時は医師に報告し、その後の指示については介護記録や申し送り等で情報を共有するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 馴染みのある作業で役割を持って頂いている。また、生活歴を踏まえ読書や歌、会話などで気分転換が図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や水やり、散髪、近場のスーパーに行ったりなど、希望に応じ、出掛けている。自宅周辺に行く際には、事前に家族さんから道を教えて頂いたり協力を得て支援している。	
			(外部評価) 散歩コースには、田畑が多く、農業をされていた方は関心を持ってもらえるようだ。車いすを使用する方も、職員が押し外に出られるよう支援されている。お花見のお弁当は業者に注文しているが、事業所で利用者の状態に合わせ食べやすいよう小さく切ったりしてから出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理ができる方には買い物の際、支払いができるよう支援しているが、職員が介助にて対応している事が多い。管理のできる方については、使用金額と残金を確認し、個別ファイルに記入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) プレゼントを貰った際など、職員がダイヤルを押し電話でのやり取りができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フローアの窓から見えるようプランターで野菜や花を植え、季節感を感じれるようにしている。 また、職員の声の大きさは時間帯によって使い分けるよう心掛けている。	
			(外部評価) 裏の畑は、現在駐車場にしており、畑仕事を楽しんでいた方は、玄関のプランターでプチトマト等を育てておられる。居間では、利用者それぞれに、ソファに座ってテレビを見たり、畳の間で横になったり、歌を歌ったりして過ごされている。2階には天窗があり、自然の光が入り明るい。壁には、利用者と担当職員のツーショットの写真や行事の写真、又、訪問があった小学生からの寄せ書き等が貼られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 角度の違う場所や廊下の途中にソファ置いたり、その他テーブル椅子、冬にはコタツを設置し、それぞれが好きな所で過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所の際には出来るだけ自宅等で使っていた物を持ち込んで頂くよう説明はしている。家具や衣服のみならず、人形なども本人さんの馴染みの物を置き、安心した生活が送れるようにしている。	
			(外部評価) ご家族が持参された観葉植物を職員と一緒に世話している方やご家族の写真をたくさん飾っている方、又、子どもや動物のぬいぐるみをたくさん置いている方もいる。床に布団を敷いて休む方で、毎朝布団を押し入れに収納する等、ご自宅からの習慣を続けている方もある。気管の弱い方の居室には、事業所で用意した加湿器が置いてあった。誕生日に贈った感謝状や担当職員からの書の額を飾っておられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人の力を見極め、カンファレンス等で話し合いアイデアを出し合っている。	
			(外部評価)	